**「ラーマクリシュナの福音」勉強会　第７１回　（２０２１年１月１０日）**

**・勉強範囲：「第三章　ヴィディヤー・シャーゴル訪問」４０頁**

**（前回の復習）**

**①「中も神」の印象をはっきりつかむために**

**→ 人格の各レベルの、１つ１つを取り上げて、神への愛を実践する**

・感覚のすべてのレベルで神を感じる瞑想etc.の実践。［👉前回の講義録に誘導瞑想アリ］

・感覚のレベルで：神の姿を見る、神の話をする、神の話を聞く、神の歌を歌う、神の歌を聞く、神のおさがりを食べる、神の御名を唱えるetc.

・知性のレベルで：神だけが実在であるとはっきり理解する

・記憶のレベルで：神に関する物事をいつも忘れない

・このように、１つ１つ取り上げて「それも神、これも神」と実践しなければ、「中も神」のイメージを持つことはできない

**②「外も神」の印象をはっきりつかむために**

**→ 外界のすべてのものを、１つ1つ取り上げて、その中に神を見る**

・外界のもの（自然、動物、人etc.）１つ１つを取り上げて、「それも神、これも神」と実践する［👉前回の講義録にその具体的な実践方法アリ］

・１つ１つではなく、ただ全体をみているだけではイメージをつかむことはできない

**③実在（ブラフマン、神）を想像する実践**

・ナレーンドラ（出家前のスワーミー・ヴィヴェーカーナンダ）は、「師（シュリー・ラーマクリシュナ）は水差しもブラフマン、茶碗もブラフマンとおっしゃる。それはおかしいと思いませんか？」とハズラと共に冗談を言うかのように笑って話していました。笑い声を聞いて部屋から出てきたシュリー・ラーマクリシュナがひとたびナレーンドラに触れると、ナレーンドラにはそのあと見聞きし経験する１つ１つが、すべてブラフマンに見えました（visualization＝視覚化）──道もブラフマン、馬車もブラフマン、お皿もブラフマン、手足もブラフマン──普通、道を渡る時には車に気をつけますが、この非二元論的経験の直後、ナレーンドラには何も怖いものはありませんでした。なぜならすべてはブラフマン、自分も道も馬車もブラフマンだったからです。［👉『ラーマクリシュナの生涯　下巻』p391］

霊的レベルが高かったナレーンドラはシュリー・ラーマクリシュナのひと触れで実在を経験しました。しかし霊的レベルの高くない私たちは、実在の経験を「想像」から始めます。実在を想像してとても深く想像できるようになり、その想像が常に行われるようになったら、そのとき想像と実在は１つになります。それまでは、１つ１つについて、「これは神です」「あれは神です」と実在を想像することが悟りへの窓口です。

いくら口で「神は遍在」と言っても言葉だけなら意味はありませんね？　ですから「神は遍在」を深く想像するのです。そのような瞑想が、二元論的な経験（ドヴァイタ）と非二元論的経験（アドヴァイタ）を１つにします。そうすれば神を愛するだけでなく、真理を悟ることもできるのです。霊的実践の目的は、「実在/真理/神を悟る」、つまりラーマクリシュナ・チャイタ（ラーマクリシュナ意識）あるいはイエス・アドヴァイタあるいはブッダ・アドヴァイタに至ることです。それらは皆同じです。なぜならラーマクリシュナの本性も、イエスの本性も、ブッダの本性もみなサチダーナンダだからです。最終的な経験は同じ、窓口だけが違います。

私たちは、最初からブラフマンのイメージができないですから（＝非二元論的な実践の準備はないですから）、各自イメージしやすい窓口から入り、出口へと徐々に進みます。しかしどの窓口から入っても、最終的に出口は同じ経験、すなわちサチダーナンダです。

　　～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～

**（今回の勉強）**

**ナーラダの『バクティ・スートラ』の１１の助言（続き）**

前回、ナーラダによる１１の助言のうち、最初の２つを説明しました。

［👉『ナーラダ・バクティ・スートラ　～信仰の道についてのナーラダの格言集～』　日本ヴェーダーンタ協会　p161に１１の助言が掲載されています］

**ナーラダの１１の助言①　神の栄光を描写する、についての補足**

その1つ目、「神の栄光（神の神聖な性質）について描写する」について補足します。前回も述べましたが、神の栄光とは神の神聖な性質のことで、たとえば

・神は全知、全能、遍在（omniscience、omnipotent、omnipresence）

・神は宇宙を創造し、維持し、破壊する

・神は慈悲深い

・神は許す

・（許すだけでなく）私たちの罪を消す

・私たちの悪いカルマを切り落とす（cut）、滅ぼす（destroy）

・信者の願いを叶える

・悪人を罰する

・解脱させる（解脱をあげる）

です。日本では、神の栄光の描写はどうやって行いますか？　声明（しょうみょう）は歌ではないですね？

（参加者）神道の祝詞（のりと）。

インドでは、神の栄光の描写にはいろいろやり方があり、①賛歌と歌、②神についての話が一般的です。②はわかると思うので説明しませんが、①については、賛歌と歌の違いなどに誤解があるかもしれないので、今日は賛歌を実際に歌いながら説明をします。

**賛歌と歌の違い**

賛歌は英語でhymn（ヒム）、サンスクリット語でstotra（ストットラ）と言いますが、日本語では賛歌、聖歌、讃美歌と訳されています。ストットラの１つがたとえばバジャンです（バジャンの紹介は、2020年11月午後例会の『瞑想と霊性の生活』勉強会でしました）。

一方、歌（song）とはいろいろなテーマについて描写された普通の歌で、その中に人間同士の愛の歌もあれば、神についての歌もあります。ですがストットラは神についての歌のみです。ストットラと歌（song）の、大きな違いがまずそれです。

また、他言語のものも若干あるものの、ストットラの詩はサンスクリット語です。歌（song）の歌詞は、ベンガル語、グジャラート語、ヒンディ語etc.など各言語によるものがほとんどで、サンスクリット語はごくわずかになります。

またストットラと歌（song）では曲の長さが異なります。ストットラの曲の長さは様々です。バジャンのように短いものがあれば、４３節もある「シヴァ・マヒムナ・ストットラ」のように長いものもあります。スワーミー・ヴィヴェーカーナンダのストットラ「ムールタマへーシュワラ」は短い部類です。

またメロディの傾向も異なり、ストットラにはあまりメロディはありません。「メロディがない」という意味は、インドの伝統的な音階には「サレガマパダニ」という７音階があり（主音階と副音階がある）、歌（song）はそれらを駆使して作られますが、ストットラのメロディはその内の２つか３つのみで作られるという意味です。

またストットラでは同じメロディが繰り返されます。詩は変わっても、メロディは同じです。

それから、歌（song）の場合は長さに限界があるため、神のさまざまな面を描写することはできませんが、ストットラでは、神の遊びから性質から姿から栄光から、神についてたくさんのことを描写できます。

以上がストットラと歌（song）の違いです。大体わかりましたか？　ではこれからストットラを実際に歌って紹介します。イメージをつかんでください。

**ストットラのデモンストレーション**

**♪１　シヴァ神のストットラ「Shiva Mahimna Stotra」**（シヴァ・マヒムナ・ストットラ）

**［👉CD『シヴァ・バジャン』　日本ヴェーダーンタ協会］**

これは「シヴァの栄光の賛歌」という有名なストットラです（マヒムナは栄光という意味のサンスクリット語です。ベンガル語ではマヒマーと言います）。作者のプシュパダンタ（Pushpadanta）についてはこのようなおもしろい話があります。

──プシュパダンタはガンダルヴァでした。ガンダルヴァとはdemigod（半神）、つまり人間と神の中間の存在で、天国の人々を喜ばせるために、楽器を演奏し、歌を歌い、踊りを踊ることが務めです。プシュパダンタはガンダルヴァの王ですが、シヴァ神の偉大な信者でもあり、毎日さまざまな花でシヴァを礼拝していました。あるときプシュパダンタが世界を旅していると、ある王の庭にとても美しい花々が咲き誇っているのを見ました。プシュパダンタは素晴らしい花々を見て、つい、シヴァ神に捧げるための花を摘んでしまいました。盗んだ花でシヴァ神を礼拝するのは気分がよくないとわかっていましたが、それでもプシュパダンタは花を摘むのを止めることができませんでした。

この王もシヴァ神を礼拝するために花を育てていたのでした。そしてある朝、庭に花を摘みにいくと、ほとんどの花がなくなっているのを見て驚きました。庭は壁で囲まれ、入り口や出口には番人がいます。「いつ、誰が入ってきて花を盗んだのだろう？」と王は不思議に思いました。そしてたぶん普通の人間の仕業ではないな、と思いました。プシュパダンタは超能力で身体を透明にして庭に侵入していたのです。

確かめる方法が１つありました。王はシヴァ神を礼拝した花のおさがりを庭にまきました。神のおさがりはとても神聖なものですが、夜が明けない暗い時間にやってくるプシュパダンタにはお下がりの花が見えません。そして彼の足はお下がりの花を踏んでしまいました！　神のおさがりを踏むことは大変な罪でした。罪を犯したため、プシュパダンタは飛ぶ力と透明になる力を奪われてしまい、飛んで逃げることもできず、姿があらわになったプシュパダンタは捕まってしまったのでした。

その時プシュパダンタはとても怖くなり、罪を後悔して神に許しを深く乞い、１つ賛歌を作りました。それがこの素晴らしい「シヴァ・マヒムナ・ストットラ」です。シヴァは許し、プシュパダンタの罪は消え、彼の力も戻りました。そして二度と盗むことはしませんでした。

（第３２節の朗唱と歌　この勉強会の映像データの５８：５０頃）

Asita-giri-samam syat kajjalam sindhu-patre

アシタギリサマンシアット　カッジャラン　シントゥパットレー

sura-taruvara-shak- ha lekhani patra-murvi,

シュラトルヴァルシャーカー　レーカニーパットラモリヒ

likhati yadi grhitva sharada sarva-kalam

リコティヨディグルヒィットラ　サーラダーサルヴァカーラム

tadapi tava gunanam isha param na yati.

タドゥピタダグナーナン　イーシャパーラムナヤーティ

これがメロディです。全４３節を同じメロディで繰り返します。この節（３２節）の意味は、「インク壺は海（＝インクがいっぱい）。ペン先は天国の樹の枝。紙は地球の大きさ。時間は永遠。そしてサラスワティ女神が書きます──そのような（最高の）条件で書いても、おおシヴァ、あなたの栄光をすべて書き尽くすことはできません」。シュリー・ラーマクリシュナはドッキネッショル寺院のシヴァの小さいお寺の１つの前に座って、この節を唱えながらたくさん泣きました。

**♪２　アンナプルナ女神のストットラ「Annapurna Stotra」**（アンナプルナ・ストットラ）

次はシヴァの妻、アンナプルナのストットラで、シャンカラーチャリヤ作の有名な賛歌です。アンナプルナはドゥルガー女神の姿の１つで、アンナが「食事」、プルナが「いっぱい」という意味ですが、その名の通り彼女は食べ物をいっぱい持っている食事を司る女神です。一方彼女の夫であるシヴァは放棄の神なので、食事は托鉢によって得、トラの皮を着、ヘビの首飾りを巻き、周りに幽霊がいる火葬場を好んでいる、という対比はおもしろいです。インドのベナレス［＊ヒンドゥ教の聖地の町］のアンナプルナ寺院では毎朝このストットラのCDがかかっています。これもやはり同じメロディの繰り返しです。

（歌う　この勉強会の映像データの１：０９：２０頃）

Nityanandakari varabhayakari saundaryaratnakari

ニッティヤーナンダカリー　ヴァラーバヤカリー　サンダーリャラトゥナーカリー

Nirdhutakhilaghorapavanakari pratyaxamaheshvari

ニルドゥターキーラゴウラ　パーヴァナカリー　プラッテャクシャマーヘーシュワリー

Praleyachalavanshapavanakari kashipuradhishvari

プラレヤーチャラヴァンシュパーヴァナカリー　カーシプーラデッシュワリー

Bhiksham dehi kripavalambanakari matanapurneshvari

ビクシャㇺ　デーヒー　クリパーヴァラムーバナカリー　マターナプルネーシュワリー

（意味）

・「Nityanandakari」のニッティヤは「永遠」、アーナンダは「至福」。つまり「至福をいっぱい持っている御方」。

・「Varabhayakari」のヴァラは「あげる」、アバヤが「恐れがない」。つまり「恐怖を取り除く御方」。（マザー・カーリーには４つの手がありますね。ヴァラ・ムードラとは右掌を天に向けて指し出すポーズ、アバヤ・ムードラとは右掌を正面に向けるポーズです。マザー・カーリーとマザー・アンナプルナは同じです）

・「Saundaryaratnakari」は「とても美しい御方」。しかしもちろん普通の始まりと終わりのある美ではありません。

・「Nirdhutakhilaghorapavanakari」のニルドゥタは「罪が全くない」。つまり「罪のない完全に純粋な御方」。

・「Ghorapavanakari」のパーヴァナは「きれいにする」。つまり「すべてのものを清らかにする御方」。

・「Pratyaxamaheshvari」のマヘーシュワリは「マヘ―シュワラ（シヴァの別名）の奥さん」。つまり「シヴァの奥方である御方」。（男性形がマヘーシュワラ、女性形がマヘーシュワリ）

・「Praleyachalavanshapavanakari kashipuradhishvari」のカーシプルは「ベナレス」のこと。つまり「ベナレスの女王である御方」。

・「Bhiksham dehi」は「托鉢してください」。

これは普通のビクシャ（托鉢）ではなく、「ギヤーナ（知識）とバイラッギャ（放棄）とシッデイ（成功）を私は欲しい」という意味です。協会の夏期リトリートの時、食事の前に唱えるパールヴァティ［＊アンナプルナ女神の別の姿］のマントラに、「ギヤーナ・バイラッギャ・シッダルタム」とあります。それは「食物や霊性の糧（かて）に常に完全に満たされていて、シヴァの心の支配者であるパールヴァティよ、知識と無執着と霊的成功を得たいという私の願いをどうぞお聞き届けください」という意味です。

・「kripavalambanakari」は「あなたの恩寵で」。

・「Matanapurneshvari」のマータは「お母さん」、アンナプルナシュワリは「アンナプルナというイッシュワリ（イーシュワラが神、イッシュワリが女神）」。つまり「母なるアンナプルナ女神よ」。

**♪３　ラーマチャンドラのストットラ**

**［👉CD『SRI　RAMANAMA　SANKIRTANAM』　日本ヴェーダーンタ協会］**

ラーマクリシュナ僧院の本部と支部では、エーカーダシの日にいつもラーム・ナーム・サンキールタンを歌っています［＊日本ヴェーダーンタ協会では月に一度］。これは最初詩だけあって、メロディが後から付けられました。

（歌う　１：１３：13頃）

1. Shuddha-brahma-parat-para Ram（シュッダー　ブランーマ　パラート　パラ　ラーム）

2. Kala’tmaka-parameshvara Ram　 （カーラートマカ　パラメーシュワラ　ラーム）

3. Shesa-talpa-sukha-nidrita Ram 　（シェーシャタルパ　スカ　ニードゥリタ　ラーム）

4. Brahm’ady’amara-prarthita Ram （ブランマーデャーマラ　プラールティタ　ラーム）

5. Chanda-kiranakola-mandana Ram （チャンダ　キラナクラ　マンダナ　ラーム）

6. Shrimad-Dasharatha-nandana Ram（シュリーマッド　ダシャラタ　ナンダナ　ラーム）

7. Kaushalya-sukha-vardhana Ram　 （コウシャーリャー　スカ　ヴァルダナ　ラーム）

8. Vishvamitra-priya-dhana Ram　　 （ヴィシュワーミートゥラ　プリヤ　ダナ　ラーム）

……（108まで続く）

（意味）

おお、ラーマ！　あなたはブラフマンそのもの、あなたは全存在の中の最も偉大な御方。

おお、ラーマ！　あなたは時そのもの、最高の支配者である御方。

おお、ラーマ！　あなたはシェーシャのヘビの寝床で眠っている御方。

おお、ラーマ！　あなたはブラフマーや他の神々から礼拝されている御方。

おお、ラーマ！　あなたは太陽の王族が誇りとする御方。

おお、ラーマ！　あなたはダシャラタの息子として誕生された御方。

おお、ラーマ！　あなたの母、コゥシャリャの喜びを高められた御方

おお、ラーマ！　賢人ヴィシュワミトラが最も大事な宝として大切にした御方。

……

**♪４　シュリー・クリシュナのストットラ**

これも最初詩だけあり、後でメロディが付けられました。

（歌う　１：１６：３５頃）

Navina - megha – sannibham　（ナヴィナ　メーガ　サンニバン）

Sunila - kamala – chchhavim　 （スニーラ　カーマラッチャヴィム）

Suhasa ranjitadharam　　　　 （スハーサ　ランジターダラム）

Namami Krishna-sundaram　　（ナナーミ　クリーシュナ　スンダラム）

Yasoda nanda nandanam　　　（ヤショーダ　ナンダ　ナンダナム）

Surendrapada vandanam　　　（スレーンドラパーダ　ヴァーンダナム）

Suvarnaratna mandanam　　　（スワルナラトゥナ　マンダナム）

Namami Krishna-sundaram　　（ナナーミ　クリーシュナ　スンダラム）

……（続）

**♪５　シュリー・ラーマクリシュナのストットラ①「Sri Ramakrishna Suprabhatam」**

（シュリー・ラーマクリシュナ・スップラバータム）

**［👉CD『シュリー・ラーマクリシュナ・アラティ』　日本ヴェーダーンタ協会］**

インドの伝統では、神は晩御飯を食べたらお休みになり、翌朝起床します。Suprabhatam（スップラバータムの「ス」＝good、「プラバータム」＝morning）とは「good morning」「おはようございます」という挨拶で、この賛歌で喜ばせて神を起こすのです。インドでは神は天国や遠いところに住む存在ではなく信者の家族の一員です。だからこのような賛歌が生まれます。作者はラーマクリシュナ僧院のバンガロール支部長のスワーミー・ハーシャナンダ（Swami Harshananda）です。本当に素晴らしい賛歌で、僧院の僧侶たちはこのストットラが大好きです。

（歌う：１：２３：１５位から）

Dharmasya hanim-abhitah paridrsya sighram

ダルマーッスャ　ハーニマビタフ　パリドリッシャ　シーッグラーム

Kamara-pushkara iti prathite samrddhe

カーマーラ　プーッシュカライティ　プラティテー　サムリッディエー

Grame suvipra-sadane hyabhijata deva

グラーメー　スヴィーップラサダネー　ヒャビジャータ　デーヴァー

Shri-Ramakrishna-bhagavan tava suprabhatam.

シュリー　ラーマクリシュナ　バガヴァンー　ダヴァ　スップラバータム

Balye samadhyanubhavah sita paksi-panktim

バールエー　サマーデャヌバヴァㇵ　シタ　パクシパンクティム

Sandrisya megha patale samavapi yena

サンドリーッシャメーガ　パタレー　サマバーピ　イエーナ

Ishaikya-vedana-sukham shivaratri-kale,

イーシャーィキャ　ヴェーダナスカム　シヴァラートゥリカーレー

Shri-Ramakrishna-bhagavan tava suprabhatam.

シュリー　ラーマクリシユナ－　バガヴァンー　タヴァ　スップラバータム

……（続）

（意味）

まわり全てで、ダルマが衰えているのを見て、ああ主よ！

あなたは、カマルプクールとして知られる繁栄する村の

良きブラーミンの家にダルマを復活させるために生を受けられた。

ああ主シュリー・ラーマクリシュナよ、栄光なる曙(あけぼの)がありますように！

黒い雲を背景に飛ぶ白い鶴の群れを見て、あなたは幼年期にサマーディを経験された。

シヴァラートリーのときには、主シヴァとの至福なる一体を経験された。

ああ主シュリー・ラーマクリシュナよ、栄光なる曙がありますように！

……

**♪６　シュリー・ラーマクリシュナのストットラ②「Sri Ramakrishna mangalashasanam」**

（シュリー・ラーマクリシュナ・マンガラササラナム）

**［👉CD『シュリー・ラーマクリシュナ・アラティ』　日本ヴェーダーンタ協会］**

（歌う　１：２５：３５頃）

Mangalam deshikendraya yaminam chakravartine

マンガラム　デーシケンドラーヤー　ヤミーナン　チャックラヴァルティネー

Para shakti svarupinyai devyai bhavatu mangalam

パラー　シャクティッ　スヴァルーピンニェーイ　デーヴャイー　バヴァトゥマンガラム

Satya sandhasya bhaktasya Ksudiramasaya sunave

サーットャサンダッスヤ　バクタッスヤー　（ク）シュディーラーマッスヤ　スーナヴェー

Gadadharaya medinyam avatirnaya mangalam

ガダーダラーヤ　メーディンニィヤーム　アヴァティールナーヤ　マンガラム

Gadadhara sunamne cha bhaktya-veshtita chetase

ガダーダーラ　スナムネーチャー　バクトヤ　ヴェシュティタ　チェータセー

Anadritanya vidyaya mangalam brahmacharine

アナードゥリタンーニャ　ヴィッディヤーヤー　マンガラム　ブラフマチャーリネー

……（続）

（意味）

至高の師、最高の僧、根源なるエネルギーの化身よ。

ガダダールの化身、献身的で正直なクディラムの息子として生まれた御方。

ガダダールという名で、少年の時でさえ法悦に没入していた御方。

ドッキネッショル寺院で聖母バヴァターリニを独自な方法で礼拝された御方。

……

**♪７　シュリー・ラーマクリシュナのストットラ③「Khamdana Bhava Vandana」**

（カンダナ・バヴァ・ヴァンダナ）

**［👉CD『シュリー・ラーマクリシュナ・アラティ』　日本ヴェーダーンタ協会］**

前の２曲はサンスクリット語でしたが、これはベンガル語で、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダが作りました。ラーマクリシュナ僧院の本部と世界中の支部で、夕方のアラティの時に歌います。

（歌う　１：２７：１０頃）

［＊詩とその意味は、日本ヴェーダーンタ協会HP→インドの賛歌を参照してください］

**♪８　ホーリー・マザーのストットラ『Prakritim paramam abhayam varadam』**

（プラクリティン・パラナム・アバヤム・ヴァラダム）

**［👉CD『シュリー・ラーマクリシュナ・アラティ』　日本ヴェーダーンタ協会］**

**［👉CD『Sri Ramakrishna Aratrikan』Track 5　日本ヴェーダーンタ協会］**

ホーリー・マザーのストットラの中で最も有名なものです。メロディが少し違いますが、ジャイランバティ［＊ホーリー・マザーの誕生地］のお寺でも毎日歌っていますし、ベナレスのアーシュラムでも毎日、ベルルマトや日本ヴェーダーンタ協会でも時々歌います。

ホーリー・マザーについての賛歌は僧侶や信者が作ったものがたくさんあるのですが、私の個人的な意見で、その中の最高がこの賛歌です。これはシュリー・ラーマクリシュナの出家弟子スワーミー・アベダーナンダがたぶん２２歳か２３歳頃に作ったものですが、「そんなに若くてなぜホーリー・マザーの本性をこれほど深く理解できたのか」、私はそのことに非常に驚いています。

その関係でこのような話があります──シュリー・ラーマクリシュナの身体がなくなってしばらくのち、ホーリー・マザーはカルカッタのニランバル・バブー・ガーデンハウスに住んでおられました。その頃アベダーナンダジーはガンジス河の東土手のアランバザール僧院にいたので、簡単に舟で渡ってホーリー・マザーの元を訪問することができました。ある日アベダーナンダジーから「マザー、私はあなたを讃える詩を作りました」と聞くと、謙虚そのものであるホーリー・マザーは「私の何が特別なのですか？」と恥ずかしそうにしていましたが、「息子が作ったのなら聞きましょう」と彼が朗唱するのをお許しになりました［👉『ホーリー・マザーの生涯』p114 L4］。そして聞きながら目を閉じてサマーディに入られたのです。

「Ramakrishna-gata-prana tan-nama shravana-priyam ; Tad-bhavaranjita-karam pranamami muhur-muhuh.」（ホーリー・マザー、あなたは外側は女性ですが、中はすべてラーマクリシュナです。あなたの心はすべてシュリー・ラーマクリシュナに向けられています。シュリー・ラーマクリシュナの本性があなたの本性になりました。そのあなたに私は敬礼します、敬礼します）と朗唱している時、アベダーナンダジーの前にはホーリー・マザーではなく、シュリー・ラーマクリシュナが座っていました──アベダーナンダジーはそのようなヴィジョンを見たのです。

（歌う　１：３６：５０）当時はメロディがなく、詩だけでした。

1.Prakritim paramam abhayam varadam nararupa-dharam janatapa-haram;

プラクリティム　パララム　アバヤム　ヴァラダム　ナラルーパ　ダラム　ジャナターパハラム

2. Sharanagata sevaka tosha-karim pranamami param jananim jagatam

シャラナーガタ　セーヴァカ　トーシャカリム　パラナマーミ　パラム　ジャナニム　ジャガタム

3. Gunahina sutan aparadha-yutan kripayadya samuddhara moha-gatan;

グナヒーナ　スタン　アパラーダユタン　クリパヤーデャ　サムーッダラ　モーハガタン

4. Taranim bhava-sagara-parakarim pranamami param jananim jagatam

タラニム　バヴァ　サーガラ　パーラカリム　プラナマーミ　パラム　ジャナニム　ジャガタム

……（続）

（意味）

1. 人の姿に化身したシャクティに、

恐れに苦しむ者に恵みと避難所を与える方に、

人の惨めさをあがない、信者の心に喜びをあたえる方に、

そのあなたに、私は礼拝いたします。おお、至高の御方、全世界の母よ！

2. 価値なく、罪に満ち、迷っているあなたの子供たちに慈悲をあたえてください。

あなたはこの世の大海を越えて彼らを渡してくれる船、そのあなたに私は礼拝します。

おお、至高の御方よ、全世界の母よ！

3. 世俗の快楽を捨て、おお、私の心の蜜蜂である御方、

蓮華の御足の甘露、欲望の病への良薬をあたえてください、

私はあなたに礼拝します。おお、至高の御方よ、全世界の母よ！

4. おお、偉大な神よ、あなたの前にひれ伏す子供たちにお恵みをください。

おお、憐れみ深い方よ、あなたの御足のもとに避難することをお許し下さい。

そのあなたに礼拝をいたします。

……

**♪９　スワーミー・ヴィヴェーカーナンダのストットラ『Murtamaheshvara』**

（ムルタマヘーシュワラ）

**［👉CD『Sri Ramakrishna Aratrikan』Track 6　日本ヴェーダーンタ協会］**

これはスワーミージー（スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ）の弟子、Sarat Chandra Chakravortiが作った素晴らしい賛歌です。スワーミー・ヴィヴェーカーナンダはシヴァの化身ですが、マヘーシュワラとはシヴァのことです。ところで、協会の雑誌『不滅の言葉』に連載中の「ヴィヴェーカーナンダとの対話」はSarat Chandra Chakravortiが書いたものです。

（歌う　１：４１：４０頃）

Murtamaheshvara-mujjvala-bhaskara（ムールタマへーシュワラ　ムージャラヴァースカラ）

mishtamamara-nara vandyam,（ミーシュタママラ　ナラ　ヴァンディヤン）

Vande Vedatanu-mujjhita-garhita-（ヴァンデ　ヴェーダタヌ　ムージタ　ガールヒタ

Kanchana-kamini-bandham;（カンチャナ　カーミニ　ヴァンダム

Kotibhanukara-diptasimhamaho!（コーティバーヌカラ　ディプタシームハマホ！）

katitata kaupinavantam,（カリカタ　コウピナヴァンタム）

Abhirabhih-hunkara-nadita-dinmukha-（アビラビ　フンカラ　ナンディタ　ディンムカ）

prachanda-tandava-nrityam;（プラチャンダ　タンダヴァ　ニリィッティヤム）

……（続）

（意味）

かのグル、ヴィヴェーカーナンダの前に私はひれ伏します。

主シヴァの化身であられ、太陽のように光かがやき、

不死なる者たちからも、死すべき者たちからも愛され敬われていらっしゃる彼。

彼はヴェ－ダの権化であられ、女と金を放棄なさった。

……

**♪１０　リグ・ヴェーダの賛歌『Samghachadhvam』**(サンガチャーッドヴァム)

**［👉CD『普遍の祈りと賛歌』14曲目　日本ヴェーダーンタ協会］**

今までのデモンストレーションでストットラのイメージがつかめましたか？　次は神の賛歌ではなく、調和の賛歌ですが、リグ・ヴェーダの一節にメロディを付けたものです。

（歌う　１：４５：３０頃）

サンガチャーッドヴァム　サムヴァダーッドヴァム

サムーヴォーマナームシ　ジャーナター

……（続）

（意味）

共に働きましょう、共に話しましょう、心を調和させましょう

共に祈りましょう、共に悟りましょう、私たちの目的は不変のものです

考えを一つにしましょう、ハートを一つにしましょう

私たちの調和を完全なものにしましょう

……

　　～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～

ナーラダによる１１の助言のうちの、2つ目の説明に進みます。

［👉『ナーラダ・バクティ・スートラ　～信仰の道についてのナーラダの格言集～』p161］

**ナーラダの１１の助言②　神を執着するほど好きになる**

ナーラダの２つ目の助言は、神を執着するほど好きになる、ということです。神の姿がどれほど美しいか──私たちは人間の美しさに執着しますが、執着の対象を神に変えて、神の素晴らしい姿に執着するほど愛してください。人の美しさに執着になることと神の美しさに執着になることでは結果がまったく異なります。なぜなら人間の美しさは永遠ではありませんが、神の美しさは永遠だから［＊結果も永遠となる］です。

**ナーラダの１１の助言③　神のお世話、儀式、礼拝を好きになる**

『ラーマクリシュナの福音』の中では、「キャプテン」と呼ばれていたネパール人が、儀式や礼拝を大変好んでいました。では、私たちラーマクリシュナ僧院の中で、誰が一番礼拝や儀式が好きだったか知っていますか？

（参加者）シャシ・マハーラージ。

そうです、ラーマクリシュナーナンダジー（シャシ・マハーラージ）です。

シュリー・ラーマクリシュナの身体がなくなって、直弟子たちがバラナゴル僧院を経てアランバザール僧院にいた頃のことです。スワーミージーの頼みによって、ラーマクリシュナーナンダジーは僧院の支部をつくるために南インドのチェンナイに移住しました。それまで、ラーマクリシュナーナンダジーはいつも、毎日、シュリー・ラーマクリシュナを礼拝していました。直弟子たちは霊的実践（タパッシヤ）のために各地を巡礼に出掛けましたが、ただ1人、ラーマクリシュナーナンダジーだけは例外でした。巡礼に出たら、毎日の礼拝ができなくなるからです。ベナレスは有名な巡礼地で、そこに行ったことがない僧侶は滅多にいません。ラーマクリシュナーナンダジーはその数少ない僧侶の1人です。

当時の僧院の経済事情はひっ迫していて、ラーマクリシュナーナンダジーは托鉢にまわったり、ある時には３カ月間学校の先生をして金銭を稼いで兄弟弟子たちを食べさせていました。またバラナゴル僧院は半壊のような建物で（だから家賃も安かったのですが）、木々に覆われ、ヘビや幽霊が出没する有様でした。出家弟子たちは（まるでシュリー・ラーマクリシュナの真似のようですが）ふんどし１つで修行をし、外出着は皆で１つを共有して着まわしました。そんな状態でも礼拝用の花が必要だったラーマクリシュナーナンダジーは、先ほどのプシュパダンタのように、許可を取らずに人の庭に入って花をとりました。その庭の人はとても怒ってひどい言葉で侮辱し、ラーマクリシュナーナンダジーの心はとても痛かった。そこで泣きながらシュリー・ラーマクリシュナに祈りました、「いつ、私に庭が与えられるのですか？　もし庭があったら私は樹を植えたい。花が咲いたらその花であなたを礼拝したい」と。当時はそのような状態でした。

知るとみな驚きます──普通の礼拝は1時間から長くて3時間くらいですが、ラーマクリシュナーナンダジーの礼拝は、朝から始めて翌日の朝終わる、ということもありました。24時間の礼拝です。信じられない！　ですが、本当です。

そしてラーマクリシュナーナンダジーの礼拝は、シュリー・ラーマクリシュナの写真を礼拝するのではなく、「本当にシュリー・ラーマクリシュナが存在している」「今もシュリー・ラーマクリシュナが生きている」と考えて礼拝し、お供えし、シュリー・ラーマクリシュナを寝かしつけたり起こしたりするのでした。シュリー・ラーマクリシュナを礼拝しているとき、ラーマクリシュナーナンダジーの白い肌は赤くなり、光を放つような状態になりました。

直弟子たちの出家名はスワーミージーが決めました。スワーミージーは、本当は「ラーマクリシュナーナンダ」という名が欲しかったのですが、シャシがどれほどお世話をしているかを知っていたので、シャシこそその名にふさわしいと思い、シャシをその名に決めました。その時のスワーミージーの出家名はサチダーナンダでした。

扇風機がなかった当時は夏になると、ヤシの葉で作ったうちわであおいで涼をとっていました。私が子供の頃もうちわであおぎながら寝ていましたが、ラーマクリシュナーナンダジーのやり方もそうでした。シュリー・ラーマクリシュナのための布団を用意したら、その上に写真を置いて、そのあと長い時間、うちわであおいで涼しくしてあげるのです。その後自分が床につくのでした。ラーマクリシュナーナンダジーにとって、シュリー・ラーマクリシュナは本当に生きている御方でした。もし私たちが同じことをすると、1日そうするのさえも難しいとわかるでしょう。おそらく途中で居眠りをするか、ある日はやりたくないと思うか、自分の睡眠時間が減ってしまうと考えてしまいます。しかしラーマクリシュナーナンダジーは違いました。夏のあいだ、毎日毎日1時間2時間そうしていました。本当にシュリー・ラーマクリシュナが生きていると思っていたからです。

冬のときには、シュリー・ラーマクリシュナのために掛け布団を用意してあげました。ある夜部屋に戻って寝ていたラーマクリシュナーナンダジーは、なかなか眠ることができませんでした。「なぜ寝付けないのだろう？」と思ったとたん、「今日は掛布団を掛けてあげなかったかもしれない！」と思い、行ってみると、本当に掛布団を掛け忘れていました。シュリー・ラーマクリシュナに掛布団を掛けてあげると、やっと眠りにつくことができました。

これらの話はすべて、「どのように神への愛を増やすか」の関係で話しています。

以上

（賛歌奉献）なし

（20210110『福音』勉強会　以上）